高橋和巳の文学とその世界

梅原 猛・小松左京編

高橋和巳の文学とその世界

原 猛・小松左京編

阿部出版

高橋和巳の文学とその世界

一九九一年六月二十五日　初版印刷
一九九一年六月三十日　初版発行

定価はカバーに表示してあります。

編者　梅原猛
小松左京

発行者　阿部秀一

発行所　阿部出版
〒一五三　東京都目黒区上目黒四―三〇―一二

印刷・製本　阿部写真印刷株式会社

© 1991 Printed in Japan
ISBN 4-87242-019-5 C0095

万一落丁、乱丁のあった場合はお取替えいたします

目次

Ⅰ

梅原　猛　高橋和巳の人間　11

小松左京　「笑う高橋」と「もう一人の高橋」　17

Ⅱ

石倉　明　高橋和巳と三上和夫と　27

大林律子　『悲の器』執筆のころの高橋和巳と私　37

佐々木一郎　若き日の高橋和巳氏―「ARUKUの会」の立場から　67

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

橘　正典　貴種流離譚の流離　83
豊田善次　ふたたび高橋の記念に　109
福田紀一　「VIKING」と友情　135
三浦　浩　高橋のこと　145
Ⅲ
辻　邦生　高橋和巳のために　155
福島泰樹　黒時雨の歌　173

高城修三　我これを如何せん　195
伊達一行　『邪宗門』への〈思い〉　209
Ⅳ
井波律子　美文の精神——高橋和巳と中国文学　229
太田代志朗　頬笑みやめよ——わが高橋和巳との日々　251
村井英雄　社会的事件と高橋文学　341

V
〈対談〉高橋和巳の文学とその世界　375
梅原　猛
太田代志朗
あとがきにかえて　425
執筆者紹介　427

装幀　中島かほる

梅原　猛
小松左京　編

高橋和巳の文学とその世界

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

I

高橋和巳の人間

梅原　猛

月日の経つのは早いものである。高橋和巳が死んでから、もうかれこれ二十年になる。十年一昔というから、すでに高橋和巳は二昔前の過去の人になってしまった。今の若い人には、文学が好きでも高橋和巳という名を知らない人もあろう。高橋和巳は過去の人になったわけであるが、過去の人になるということは、歴史の人になったことである。いったい高橋和巳という人間は、日本の長い文化史の中でどういう位置をもつのであろう。

この問いに対していろいろな答え方がある。たとえば、高橋和巳は日本の近代文学史上において珍しい、学者と芸術家を両立させようとした人であった。芸術家が学者になったり、学者が芸術家になったりする例はときどきある。しかし終生、学問と芸術を両立させようとした人は甚だ少ない。高橋和巳は中国文学の学者であるが、中国文学の学者として作家になったのは、武田泰淳の前例があるが、彼は学者をやめて作家になったのである。しかし高橋和巳は、作家になってからも決して中国文学の研究者であることをやめようとしなかった。

このような意味において、高橋和巳は近代日本文学史上においてきわめて特徴的な作家である

が、同時に彼は全共闘時代の作家として末長く歴史に残るかもしれない。彼の人生、特に彼の死は全共闘運動を離れて考えられない。全共闘運動もいつのまにか歴史の遺産になった。彼は学生時代にすでにハンストを行い、甚だ特異な形で学生運動に参加したわけであるが、学園紛争の高まりの中で、京都大学の助教授であった高橋はこの運動に強く巻き込まれていくのである。私は、少なくとも彼の死を早めたものは、この運動に対するあまりに誠実すぎる彼の対処と苦悩によると思う。全共闘運動とそれに伴う学園紛争が何らかの形で一つの事件であるとすれば、その文化的意味を彼の作品は代弁するにちがいないのである。

このように高橋和巳に対するみかたはさまざま可能であるが、私は彼を信頼の天才であり、彼の文学を一つの信頼の文学とみたいのである。私は彼と長い間つきあって、彼ほど友人に対する高い信頼をもつ人間は稀であると思った。それはむしろ、中国文学的な「壮士一度去りて、風蕭々として易水寒し」という詩のごとき、人間と人間との信頼である。彼は小松左京を終生の友人としてあつく尊敬した。小松左京はそのペンネームのごとく左の京大生であり、高橋和巳を主宰者としている雑誌「対話」を、日本共産党の支配におくべき任務を帯びて「対話」同人に加わったことは多くの友人の証言するところである。それが高橋らと交わるようになり、ミイラとりがミイラになって日本共産党から脱党したわけであるが、高橋は終生、小松は純粋に文学が好きで「対話」同人に入ってきたと信じていた。また、たか子夫人と高橋和巳の出会いについても高橋は、高橋和巳がＮＨＫから出てきたときに偶然たか子夫人に会い、天女のごとき姿を見て恋に落ち結

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com